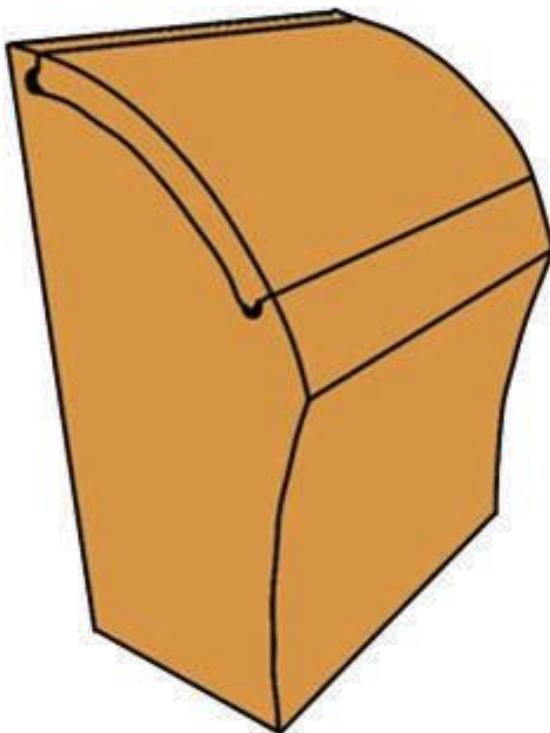


# 無電力生ゴミ堆肥化装置 「グン太君」

## マニュアル



自然環境中に存在する好気性微生物を利用  
自然通気を利用し保温性を高めた多槽式構造

- ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。
- この取扱説明書の内容を無断で転載することは禁じられています。
- 本器の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

# 安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

## ■ここに示した注意事項は

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区別し、説明しています。



**警告** 「死亡又は重傷を負うことが想定される」内容です



**注意** 「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される」内容です。

## 絵表示の例

	「警告や注意を促す」内容のものです
	してはいけない「禁止」内容のものです
	必ず実行して頂く「指示」内容のものです


**警告**

	酒類やアルコール分を含む物を入れない。(酒粕・アルコール漬ける果実・薬草など) 多量の柑橘類(みかん・オレンジなど)の皮を入れない。多量の食用油・油脂類やそれらを含む物を入れない。 ●爆発や火災・引火、自然発火の恐れがあります。
	幼児に処理機の中をのぞかせないまた、処理機の近くに台を置かない。 ●落ちて怪我をすることがあります。
	安定したところに水平に据え付ける。 ●安定したところに据え付けないと転倒する恐れがあります。
	ベランダに据え付ける場合は、本体を手すり側に据え付けない。 ●落下、転倒やお子様が踏み台にして転倒する原因になります。
	本体のお手入れには、絶対に有機溶剤を使わない。 ●本体が溶けたり、悪性のガスが発生恐れがあります。


**注意**

	火気の近くに設置しない。また、火のついたタバコなどを投入しない。 ●本体の変形による発火の原因になります。
	生ゴミ処理機の上にのぼったり、重いものを載せたりしない。 ●変形・破損・転倒によりけがをする恐れがあります。
	風通しのよい屋外に設置する。 ●空気の流れが悪いと、処理が上手くできない原因になります。

# 目 次

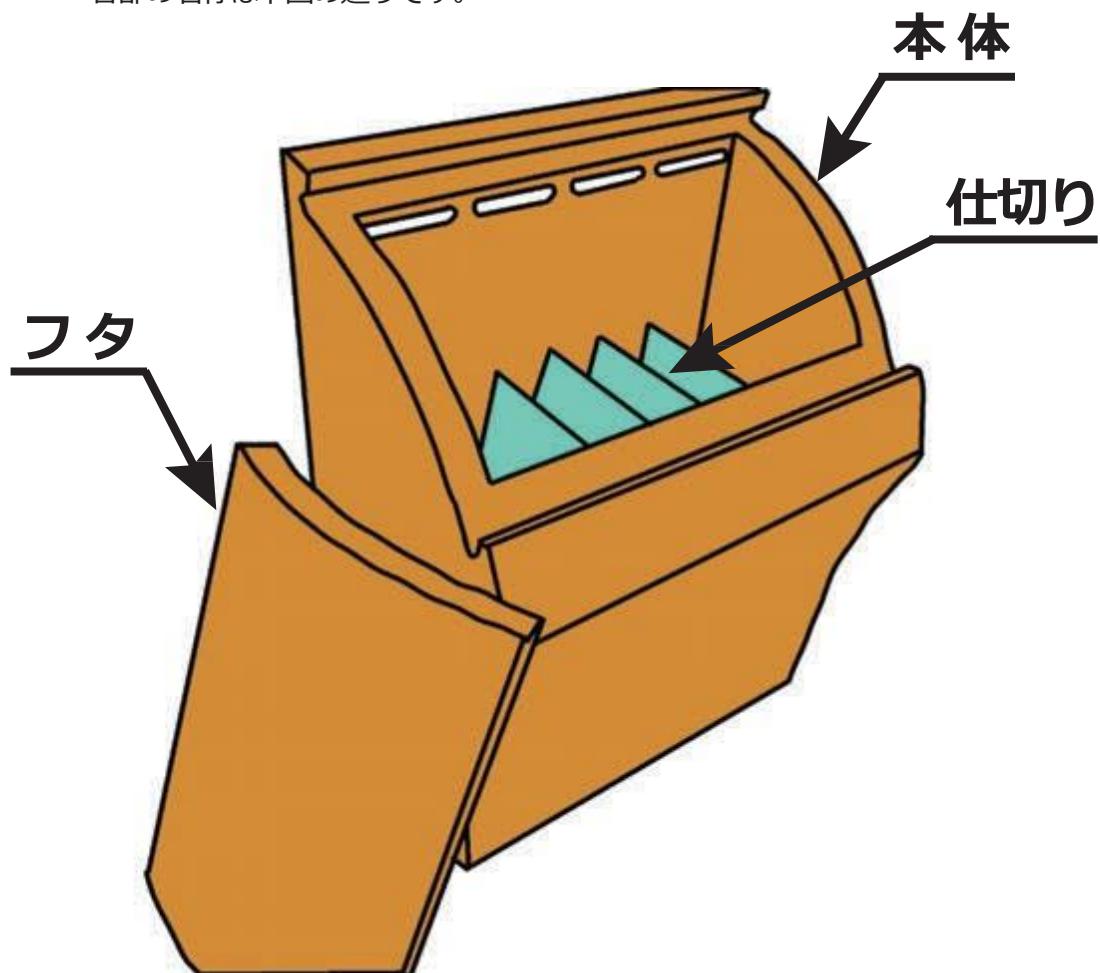
---

<b>1. 各部の名称</b>	4
1-1. 各部の名称	
1-2. 付属品について	
<b>2. 使用方法</b>	<b>5. 6</b>
<b>3. 投入できるもの</b>	<b>7</b>
<b>4. 投入できないもの</b>	<b>8</b>
<b>5. ご使用上の注意</b>	<b>9</b>
<b>6. お問合せ先</b>	<b>10</b>
<b>7. 概 要</b>	<b>10</b>

# 1. 各部の名称

## 1-1. 各部の名称

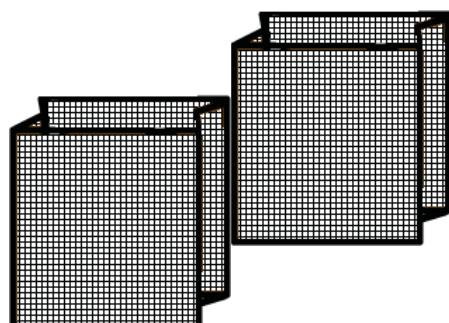
各部の名称は下図の通りです。



## 1-2. 付属品について

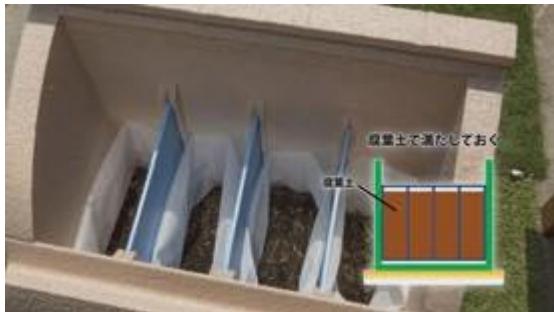
付属品は以下のリストの通りです。

### 堆肥用袋 (4袋)



## 2. 使用方法

1. 最初に、4つのカートリッジにすべてを腐葉土で満たします。  
(1つのカートリッジに約2Lの腐葉土を入れる)



3. ①に入っている腐葉土を取り出し混ぜる用の容器に2/3、底・フタ用の容器に1/3腐葉土を入れます。



5. かき混ぜます。



7. 底に、別容器に残しておいた腐葉土を半分ネットに入れます。



2. 混ぜる用と、底・フタ用の容器も用意しておきます。



4. 腐葉土を入れた混ぜる用の容器と、底・フタ用の容器に、米ぬか(約200g)・天ぷらの廃油(大さじ2杯)を入れます。



6. 次に、生ゴミや落ち葉、雑草などをいれ、よくかき混ぜます。



8. その上から生ゴミを腐葉土とかき混ぜた物を入れます。



9. 残りの腐葉土の半分をフタ用に入れます。



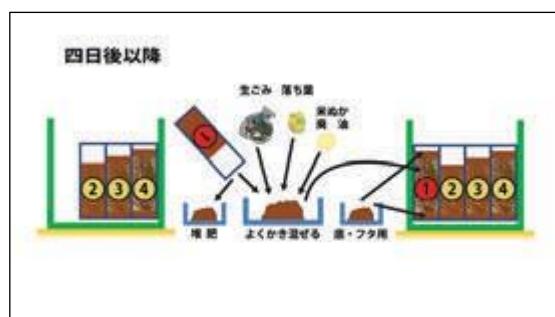
10. 上カバーを閉じます。これで1日の作業は終了です。



11. ②、③、④のカートリッジにも同様に生ゴミを投入します。



12. 初日に作った堆肥を取り出し、堆肥として利用します。



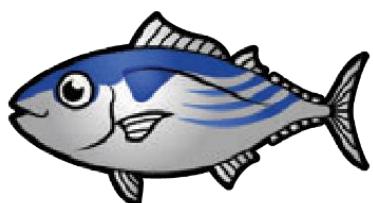
### 3. 投入できるもの

投入できるもの（人間が食べられるものであれば処理ができます。）

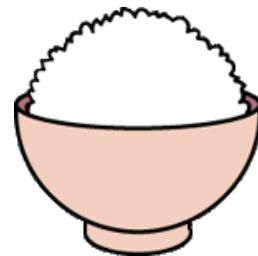
野菜くず  
果物の皮や芯



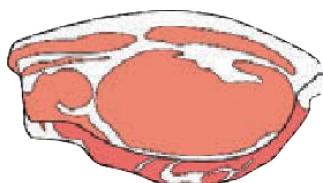
魚の皮や骨



ご飯・麺類



肉類

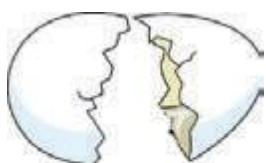


茶殻



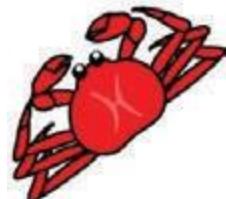
少量しか投入できないもの（1日の目安）

卵の殻



5個以内（約50g）

カニ、エビの殻



カニ：約1杯  
エビ：約12匹  
(約300g)

バナナの皮など  
繊維の多いもの



1人前相当  
(約50g)

味噌など粘性の  
ある発酵食品



おたま1杯分  
(約100g)

ジャムなどの糖分の  
多い粘性のある食品



おたま1杯分  
(約100g)

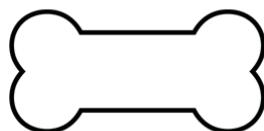
# 4. 投入できないもの

**投入できないもの（人間が食べられるものであれば処理ができます。）**

固い貝殻や梅干しの種  
クルミなど



大きな骨  
(牛・豚など)



食材の包装材など  
(輪ゴム・針金・ビニール袋など)



アルミホイール・割り箸など



## 引火の恐れのあるもの

酒類・アルコール分を  
含む食品や石油類  
(果実酒・薬用酒・みりんを含む)



## 菌の生育を妨げるもの

タバコ・洗剤・化粧品などの  
化学薬品



### 注意

- 牛乳・ジュース・しょうゆなどは直接投入しないでください。  
水分が多くなり、処理がべたつく原因になります。
- 大きく硬い果物（パインアップの皮など）、桃の種は投入しないでください。  
分解されないで残る可能性があります。
- 多量な揚げ物の油、それを固めたものは投入しないでください。  
自然発火のおそれがあります。
- 凍らせた食品は、解凍してから投入してください。  
温度を下げ菌の生育に悪影響を与えます。

# 5. ご使用上の注意

## 1. 分別して入れる

投入できる物と投入できない物があります。必ず分別して下さい。

## 2. 硬くて大きなものや長いものは小さくする。玉蜀黍の芯など硬くて大きなものや、筍の皮など丈夫で繊維質の長いものは 5cm 以下に小さくして下さい。

おにぎりのようなダンゴ状のものはほぐして下さい。

## 3. 水切りを行う。生ゴミを投入するときは、水切りをして下さい。処理に時間がかかり、臭いの発生原因になります。

### TIPS

●量が少ないとときは、保温部材を入れてください。処理するものが少ないときは、市販の耐熱用のペットボトルまたは、湯たんぽにお湯を入れ、空いている仕切りの間に入れて下さい。

温度が保たれ処理が、スムーズに進みます。

使用される雰囲気温度により、本体内側底の穴をペットボトルのキャップでふさいで下さい。

雰囲気温度の最高温が

- ・ 10 °C未満の場合、各カートリッジ毎に3個
  - ・ 15 °C未満の場合、各カートリッジ毎に2個
- を目安にふさぎ、空気量を調整してください。



### 注意

●本器のトラブルを避け、事故を未然に防止するために、下記の事項を必ずお守りください。トラブルの要因になりますので次のような場所ではご使用及び保管をお避けください。

1. 直射日光のある場所やヒーターなどの熱源に近い場所
2. 湿気の多い場所
3. 傾いたり振動や衝撃の加わる場所
4. 温度が0 °C以下、50 °C以上になる場所
5. 雨水がたまり水浸しになるような場所
6. 風通しの悪い場所

## 6. お問合せ先

---

お問合せは以下のホームページをご利用ください。

<http://www.tatsuno-cork.co.jp/>

## 7. 概 要

---

特許 NO : 第 4061527 号

サイズ : 奥行 38x 幅 60x 高さ 80cm

本体 : PS・PE

仕切り版 : PP

中網ネット : ポリエステル